

5-1(1)

(1) 主訴 場面緘黙

(2) 対象 小学校3年女子 Y子

(3) 問題の概要

- 小学校1年に入学して以来、授業中に指名されても、自分の考えをはっきりと答えることができない。もちろん、「はい」の返事もできず集団生活にうちとけることがない。
- 日常の行動にも、硬さや緊張がとれない、基本的な行動様式がとれない。登校途上は、通学グループの友人と話しているが、一歩校門をくぐると話すことをやめてしまう。
- 家庭では、他の姉妹となんら変わりがなく、楽しく話し合ったり、遊んだりしており、意志の疎通ができる。ただ、父親とはなじめない。

(4). 資料・情報

① 生育歴

- ア 胎生期、出産期には異常が認められない。出産時の体重は2940gで標準児である。
- イ 乳児期に指しゃぶりをしていたが、世話のかからない子供として育ってきた。
- ウ 生後4か月頃からベビーホームに3年間入る。
- エ 3歳の時、父親が東京に出稼ぎに出る。これ以後父親となじめない。
- オ 小学校一年生の1学期に、学級で話をした時に、みんなに笑われたことを気にしている。

② 家族構成及び家庭環境

- ア 父は農業に従事しており、無口で仕事一途である。
- イ 母は近くの工場に働きに出ており、働くことに追われて子供の養育に対する関心がうすい。
- エ 小学校5年の姉、3歳になる妹との三人姉妹である。

③ 諸調査・調査

〈本児への検査〉